

見性院住職からの一言 その十四（今年最初に言いたいこと）

年末から年明けて今月今日現在、葬儀の依頼件数が右肩上がりとなりました。まさに「飛躍の年」に相応しい開幕ダッシュ、超多忙の日々であることを皆様方に感謝を申し上げます。そんな中で私ひとりが10日間の外国旅行をさせていただき申し訳ない限りです。米国の[シリコンバレー]、アップル、グーグル、フェイスブックなど本社オフィスの視察もたいへん有意義でありました。それにしても欧米の視察旅行を重ねる中で物価高には悩まされます。日本が乗り遅れてしまった感は否めません。アメリカ人の生活を見ていて近所や仕事場、親族間のお付き合いがないのがいつもうらやましく思います。また、アメリカの大学の教授たちは一年の4分の3近くは休日でも研究に没頭できることも日米の格差を痛感します。日本では働き方改革と生産性の向上が叫ばれていますが、日本のような人間関係の窮屈な環境の中では生き生きとした仕事はできないと思います。村社会もそうですがお寺社会は、教区や本末、法類、会派・檀家のお付き合いに忙殺されて人間らしい生活はできません。私はこれまでは旅行もお寺の強制的なものしか行くことができませんでした。今は一切、絶っていますので毎月ひとり旅に出かけられるようになれました。いいことづくめの日々です。檀家制度（本末制度）がよかったのは明治・大正生まれの人たちまでで、今はその役割は終えています。人口減少と不況下にあつて檀家制度が生きながらえていくことはありません。そして人々の意識は全くもって低俗化してしまいました。明治・大正生まれの人＝奉仕・篤志の人。昭和生まれの人＝クレマーになりさがりました。（失礼千万ではありますが）昔の人は本当によかったといつも母と話しております。今の人とは吝嗇（りんしょく）にして僭越、傍若無人にして厚顔無恥の面々が増えました。当院反対派の人たちは結局は程度の知れた人々でした。そしてそれに後方支援していた宗門人は不甲斐ない人たちでした。（失礼ながら。これはそう私に進言された方はいました。）老後生活にやることなく人騒がせのためにやたらと引っ掻き回す人が増えました。何かもう少し啓蒙活動に従事するような知識人はいないものかと嘆かわしい限りです。先日の中外日報（2019年1月11日付）で高野山真言宗の添田隆昭宗務総長は「（中略）宗派、本山として一末寺の運営に口を出すことはできない。」と強調、関与せず静観する構えであることを示されたそうです。立派です。わが宗

務所、教区とは雲泥の差です。宗務所があれこれ介入してくるために改革は頓挫してしまいます。この世界でのイノベーションはまさに夢のまた夢。人材が育たない温床と化しています。今後は機構改革も必須事項となってくる筈です。今の信徒さん達は寄附はおろか法事もしません。お布施額も最低の実費です。それでいてあれこれ文句を言うのはお門違いというものです。私は檀家制度をやめてからすべてがよい方向に向かいました。かつては押し売りの旧（檀）信徒が常時押しかけてきてありとあらゆる物を買わされてきました。電気製品、保険、衣類、車などですが、すべてそれがなくなりました。今にして思えば旧信徒の意見など聞くに値する価値などなかったと思うことしばしばです。これからの寺院運営（経営）は熾烈を極めていくことになります。くれぐれも信徒の関与をさせないで迅速な舵取りをしていくことが重要になってきます。もう時間はあまりありません。どこの住職にも余裕はない筈です。勝負をかけていく時です。信徒ももう少しは協力すべきです。何もしない人が余りにも多すぎます。無能集団にならないようにするためにも。また教区寺院とのお付き合いもほぼ意味はなかったと今は後悔しています。特に当該教区は少なくとも評判がいいとは決して言えません。お付き合いをするに値するような人はほとんどいません。ですからもっと早期に袂を分かってよかったのではないかと最近につくづく述懐しております。（但し、近年、所用で長野や新潟方面に出かけることがあります、そこには本当に素晴らしい魅力的な宗侶の方達にお会いできます。地方にはまだまだ地域で活躍する奇特で尊敬に値する僧侶もおられるんだとほっとすることもあります。残念ながら埼玉では滅多にお目にかかれませんが。）これからの若い僧侶たちは志を同じくする人たちでグループをつくっていくべきです。その中で切磋琢磨して勉強し、協力をして信頼関係を高めていくべきです。今現在、私がお付き合いをしている宗侶（他宗も含む）は本当に尊敬に値するすばらしい仲間達です。僧侶とは名ばかりの悪徳が多いこの世界ですから気をつけないといけないことばかりです。今年は例年以上に大事業を控えております。幸先のよいスタートを切れたことを皆様方にご報告をし、引き続きご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

平成 31 年 1 月 27 日記